

科目名	発達アセスメント			担当教員	野村 香代
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED4SSR413
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	臨床心理士、公認心理師				
実務経験を生かした授業内容	医療機関での勤務経験に基づき、学校現場で求められる能力や行動アセスメントツールを取り上げ、検査内容や方法を説明する。				
到達目標及びテーマ	アセスメントの基礎知識を得て、実際に学校現場でアセスメントを実施し、教育に活かしていくための基礎スキルを習得することができる。				
授業の概要	特別支援教育の専門家として、児童・生徒の発達状況や学習、環境のアセスメントを的確に行い、個別の支援計画や個別の指導計画を作成して教育的支援を実施していくことは必須である。アセスメントとは何かをまず学び、そのうえで具体的なアセスメント方法・アセスメントツールに触れ、いかに解釈し、教育支援につなげていくのかについて理解を深める。				

授業計画	
第1回	アセスメントとは
第2回	アセスメントを行う前に
第3回	発達検査：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表、新版K式発達検査とは
第4回	知能検査：田中ビネー知能検査Ⅴ
第5回	知能検査：WISCⅤ①
第6回	知能検査：WISCⅤ②
第7回	知能検査：WISCⅤ③
第8回	知能検査：結果の報告
第9回	認知検査：KABC-II ①
第10回	認知検査：KABC-II ②
第11回	適応行動の評価
第12回	感覚に関する評価
第13回	読み書きに関する評価
第14回	学校で行われるアセスメント
第15回	講義のまとめと最終レポート

事前学修	2時間	授業で取り上げる検査内容について、事前に配布する検査用紙・検査実施テキストを読み込んでおくこと。
事後学修	2時間	授業内で行った検査の意義や方法を整理し、自分で実施できるように復習しておくこと。
フィードバックの方法	振り返りシート、レポートは、必要に応じて朱書きをして授業内に返却し、質問事項に関しては講義で解説を加える。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		40%	アセスメントの基礎知識や実施に関するレポート（40%）
上記以外の試験・平常点評価		60%	①講義後の振り返りシート(30%)、②ペアワークへの取り組み(30%)
定期試験		0%	実施しない
補足事項	特別支援学校での教育実習期間は休講とし、別日に補講を行う。その日程は初回に決定する。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	検査に必要な実施テキスト等は、講義前に貸し出す。			